

平成 30 年度厚生労働行政推進調査事業費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）
分担研究報告書

診療ガイドラインの今後の整備の方向性についての研究

研究分担者 中島 信久 琉球大学医学部附属病院診療教授

研究要旨：影響力の大きい海外の診療ガイドラインを国内でどのように活用するかに関する系統的な議論は乏しい。しかし、これらの活用は、診療ガイドライン作成の効率化、新しいエビデンスの迅速な現場への周知に役立つ、そこで、内容の整合性と必要な独自性を保ちながら、国内の状況に適應させた診療ガイドライン開発の方法論を検討する。

A. 研究目的

影響力の大きい海外の診療ガイドライン (GL) を国内でどのように活用するかに関する系統的な議論は乏しい。しかし、これらの活用は、GL 作成の効率化、新しいエビデンスの迅速な現場への周知に役立つ、そこで、内容の整合性と必要な独自性を保ちながら、国内の状況に適應させた GL 開発の方法論を検討することを本研究の目的とした。

B. 研究方法

日本緩和医療学会 (JSPM) が刊行する 7 つの GL 関連出版物のうち、現在改訂作業中の刊行物について、adaptation の実施可能性を検討する。

(倫理面への配慮)

(該当なし)

C. 研究結果

* がん疼痛の薬物療法に関する GL (疼痛 GL): EAPC (European Association for

Palliative Care)、ESMO (European Society of Clinical Oncology)、NCCN (National Comprehensive Cancer Network) が刊行する各ガイドラインを GRADE、Minds の GL 改訂作業プロセスにおいて adaptation できるか否かについて検討したが、内容、刊行時期などの点から、既存のエビデンスをもとに adaptation を図ることの有用性は現時点において乏しいと判断した。

D. 考察

疼痛 GL において既存の GL の adaptation を行うことができなかった。

今後、他の GL について、上記 3 団体以外の GL も加えて、adaptation の可能性を検討していく必要がある (対象となる GL: 補完代替医療、泌尿器症状、終末期がん患者に対する輸液療法など)

E. 結論

最初に取り組んだ「疼痛 GL」については、

adaptation の実現は困難であった。ここでの課題の分析のもとに、関連する他の GL について adaptation の可能性を検討していく。

F . 健康危険情報

なし

G . 研究発表

1. 論文発表

Treatment recommendations for urological symptoms in cancer patients: Clinical guidelines from Japanese society for palliative medicine. Tsushima T, Nakajima N, et al. J Palliat Med 2019;54-61;2019

Clinical guidelines for management of gastrointestinal symptoms in cancer patients: The Japanese society of Palliative medicine recommendations. Hisanaga T, Nakajima N, et al. J Palliat Med 2019 Apr 2 [Epub ahead of print]

2. 学会発表

なし

H . 知的財産権の出願・登録状況

なし